



2019年ラグビーワールドカップで使用される「日本の伝統的紋様」と「ラグビーをモチーフにした図柄」が織り込まれたデザインの公式球のレプリカを手に



謙虚で自慢話をしないのが
ラグーマンの魅力！

ラグビーを始めたのは大学からです。中高はずっとサッカーのキーパーをしていました。大学でもサッカーをしようと思見学に行ったものの、「もうキーパーはしたくない」と思っていたら、同じグラウンドでラグビー部が楽しそうに練習をしているのを見かけました。先輩方の雰囲気も良かったので、「やってみようかな」と軽い気持ちで入部したんです。

ラグビーは15人制で10ポジションあるうち僕はセンターですが、全員で攻めて全員で守ります。1試合40分ハーフで、とても痛いですが、とてもしんどいのですが、一人ひとりが自分の責任を果たしながら、誰かがミスをしたり、負けたりしている局面でカバーし合えるチームスポーツとしての魅力があります。

サッカーも同じチームスポーツですが、大きな違いは得点をしたときだと思っています。サッカーの「ゴール」に相当するのがラグビーの「トライ」ですが、トライには「チーム全員で取った」という雰囲気があるんです。

ONE FOR ALL, ALL FOR ONE 絆が深まるのがラグビーの醍醐味！

私の趣味

今回の訪問先は、
兵庫県三田市ですぎたファミリークリニックを営む杉田亮さんです。
あふれるラグビー愛をご紹介します！



身振り手振りを交えラグビーの醍醐味を熱心に語っていただきました

つい先日は、公式戦デビューを果たしました。原則40歳以上が条件なんです。

ります。よほどの独走トライでなければ、フィニッシュするまでの過程があるので、トライした本人も「自分だけの得点ではない」という意識があり「みんなありがとう」という感じなんです。不思議なことにグラウンド外でも仲間意識が残っていて、ラグーマンは仕事上でも「誰かがミスしても自分がかばおう」という人が多いです。自慢話をしないのもラグーマンの良いところなんです。

医学部5年生のときには、休学をしてニュージーランドで1シーズンプレーしました。ニュージーランドはラグビーが国技で、寒い時期はラグビー、暑い時期はクリケットを行います。たまたま運良く名門クラブチームでプレーできました。火曜日

と木曜日の夕方に練習があり、土曜日に公式戦というルーティーンです。現地の学校に通っていたわけでもなく、ほかにすることがなかったのが、日本食屋でアルバイトをしながらですが、ニュージーランドではクラブチームのリーグ戦にも子どもたちが観戦に来たり、サブグラウンドでラグビーをしたりするほどラグビー文化が根付いていて「こういう国には勝てない」と痛感したのを覚えています。

第一線で活躍した選手と 同じステージに立つ喜び

2017年に開業してからは、子ども患者さんのお母さんから三田ラグビースクールを紹介していただき、大人チーム「酔惑の一員」として週に1回ほど練習に参加しています。スクールは、幼稚園児から中学生までがつのグラウンドにいますので、まるで運動会状態です。練習中、患者さんとして来てくれたことのある小学生の子どもさんが声をかけてくれるのがうれしいですね。

チームメイトは永遠の戦友！ いつまでも熱い気持ちを抱いて

ラグビーは絆が深まりやすいスポーツです。今のチームで「厳しく楽しく、本気で挑んで勝つ」という経験を少しでも長く続けたいと思っています。高校の全国大会などに出場するスクール生をみんな応援するのも楽しいです。今後もし、ケガなどで自分がプレーできなくなっても

件なのですが、数え年でカウントするのでちよと参加できました。対戦相手には、サッカーという「元プロ選手」がたくさんいて、ボロ負けした試合もありましたが、同じグラウンドに立つて本気でやり合えるのが喜びです。日本の第一線で活躍していた方と戦えるだけでもすごくラッキーだと思います。貴重な機会を与えてくれた「酔惑」にとても感謝しています。

僕自身はほかの選手についてあまり詳しくないので、試合の後にチームメイトから「あの人はどここのキャプテンやってた人や」と教えてもらうと「どつり」と思うことがよくあります。先に聞くと思えば構えてしまうので、後から教えてもらえる方がいいです。そんな手強い選手が、試合後の握手のときに「でかいやつおとす」とか「ラグビー独特の言い回しで声をかけてくれます。スポーツマンとしてのリップサービスが素晴らしいですね。」「酔惑」にとても感謝しています。

三田のチームメイトとは永遠につながっていられたら、と思います。ラグビー独特の暑苦しい世界にずっといたいんです。

また、ご年配の先輩方からもいい刺激を受けています。年代別で短パンの色が決まっています。40代は白、50代は紺、60代は赤、70代は黄、80代は紫、90代はゴールドです。例えば、60代の試合だと「赤パンの試合」と呼ばれていて、みなさんお年を召されても気持ちは熱いです。特に、名だたる大学のラグビー部出身の方が試合になると目つきが変わります。

来年は日本でワールドカップが開催されます。前回大会で、日本が優勝候補だった南アフリカに勝ちましたが、次回は主催国なのでさらに盛り上がると思いますね。



院内の壁には座右の銘とともに描かれた先生の似顔絵が患者さんを笑顔でお出迎え

杉田 亮さん
(すぎた しょうさん)
1979年福岡県生まれ。06年大阪大学医学部卒業後、大阪赤十字病院で研修医として勤務。その後、大阪府立急性期・総合医療センター、大阪市立総合医療センター、福井循環器病院、大阪大学医学部附属病院、大阪赤十字病院での勤務を経て、17年「すぎたファミリークリニック」開業。17年9月当組合に加入。